

第10回

日本学生 B to B 新聞広告大賞

未来のクリエイター育む

しかし日本の企業の7割はBツ／Bに関わっていないといわれる。学生にとつてなじみの薄いBツ／Bの新聞広告を制作することは、実は身の回りで重要な役割を担っているBツ／B産業の存在を知ることにつながるほか、卒業後に自らが働く場として

金・銀・銅賞、審査委員会特別賞、協賛企業賞、奨励賞の受賞者には表彰楯を、副賞として金賞に30万円、銀賞に10万円、銅賞に5万円が贈られる。ここでは審査委員会特別賞と奨励賞、次のページから協賛企業賞の各作品を解説とともに紹介する。



講評 審査委員会特別賞

審査委員 細井 聖（フリーライター）

誰もが知っている指遊び

審査委員会特別賞は、惜しくも金・銀・銅賞に選ばれなかったが、きらりと光るアイデアや個性が認められた作品に与えられる。今回はスリーボンドの企業ブランド広告「絶対に離れない」が選ばれた。両手の同じ指同士を合わせ、中指だけ内側に折り曲げた状態で他の指を離そうとする。親指、人さし指、小指は離せても、薬指だけは離すことができない。この人体の構造の不思議を体験する遊びを、やったことがある人は多いと思う。広告では、この指遊びをわかりやすいイラストで表現し、「絶対に離れない」というキャッチコピーと組み合わせている。ポディーコピーでは、「このような一例を除いては、絶対に離れないというのが世の常です」と受けて、絶対に離れない接着剤を、目指して製開発に取り組みスリーボンドの企業姿勢をアピールしている。

これからの地球を支える、コマツ

浦田 晴斗さん（京都芸術デザイン専門学校）



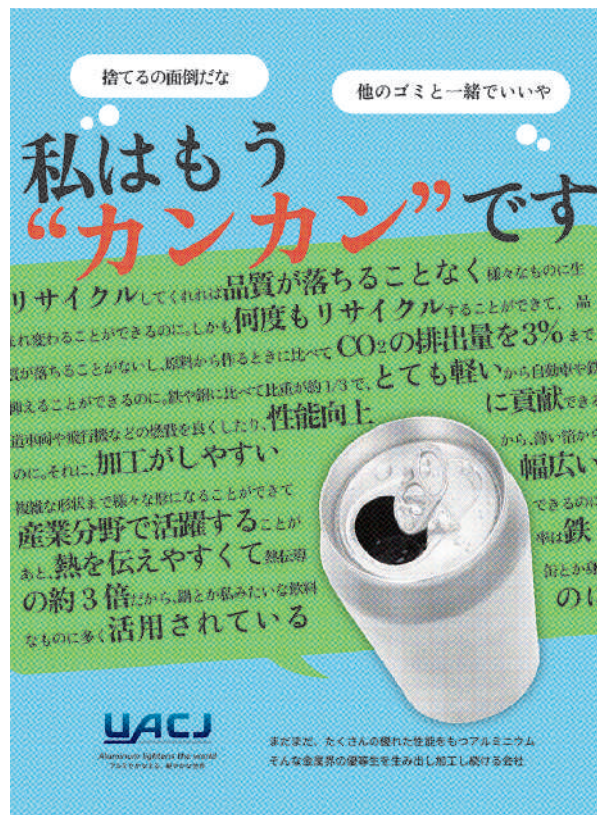
銀河鉄道の夜

梶野 美幸さん（創造社デザイン専門学校）



アルミニウムの訴え

三宅 亜弥さん（広島コンピュータ専門学校）



一瞬で伝える
時の最先端

奨励賞



BtoBコミュニケーション大学校

第34期生
募集中！

BtoBコミュニケーションの理論と実践を体系的にマスターできる。

広告や展示会、カタログからWebサイトやSNSといったデジタルメディアまで、BtoB企業のコミュニケーション活動に必要な知識を集中的に修得することができます。1992年に「産業広告大学」として開校し、30年以上にわたって多くの方に支持されてきました。コミュニケーション活動を展開する上で必要なマーケティングやブランディング、危機管理、サステナビリティなどの知見も深めることで、広い視野のもとで実践的な能力が身につくカリキュラムになっています。

講師陣には学界や実業界の第一線で活躍している専門家をそろえ、実務能力の向上を意識してわかりやすく講義します。デジタル化、グローバル化に対応できる人材を育成し、企業価値を高めていくためにも、BtoBコミュニケーション大学校を是非ご活用ください。また、講座内容はBtoBコミュニケーション分野におけるわが国唯一の認定資格「BMC 広告マスター」の資格認定試験とリンクしていますので、受講者は当試験の受験に大変有利です。

【お問合せ】 **BBAA** 一般社団法人
日本BtoB広告協会

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町14-1 TEL 03-5644-7111
<https://www.bbba.or.jp/jigyo/daigaku>

第10回

日本学生 B to B 新聞広告大賞

生き生きとー読者に語りかける

協賛企業賞

「選別する」会社です。

赤尾 拓弥さん（京都芸術デザイン専門学校）



未来を動かす、キミと共に

唐 浩翔さん（大阪経済大学）



大人の距離感より少し近くに

森 優菜さん（法政大学）



サ タ ケ

的確・ユニークに表現

このたびは「サタケの企業ブランド広告」という課題に多数ご応募いただき、誠にありがとうございました。熱意と創造性あふれる作品ばかりで感謝とともに大きな喜びを感じています。

サタケは1896年に日本初の動力式精米機を考案し創業した穀物加工機械の総合メーカーです。「食」は人が生きていくうえで必要不可欠であり、生活や心を豊かにするものです。当社は世界の三大穀物である「コメ・小麦・トウモロコシ」の加工・選別プラントを数多く手がけ、世界中の人々に「安全・安心・美味・健康」な食を提供しています。来年、創業130周年を迎えますが、多くの方々に当社を知っていただきたく作品募集しました。

協賛企業賞「『選別する』会社です。」は、まさに当社が深く関わっているコメに焦点を当て、面接風景の中に自然とコメを想起させる秀作です。就活生の頭を白米にするという奇抜さと、名前や座右の銘などにコメにまつわる言葉や言い回しを使い、当社がコメに関連した企業であることを容易に理解させます。会話に不自然さを感じさせないことも作品の質を高めている要因だと考えます。また、昨今のコメ不足や価格高騰でコメが何かと話題となっており、その意味でも時宜を得た作品と言えます。他方、「サタケは、『選別する』会社です。」と記載されており、「精米と選別のサタケ」を標榜（ひょうぼう）している当社には実に泣かせる内容です。最後に、ご応募いただいた皆さまと関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

コ マ ツ

世界中の未来を支える

このたびは「コマツが気になる！コマツで働きたい！」と考える企業広告の課題に多数ご応募いただき、誠にありがとうございました。

当社は建設機械メーカーで、創立104年を迎え、2027年には新本社ビル完成も控えており、新たな価値を創り続けるため採用にも一層力を入れています。新しいことにも果敢に挑戦し、やりぬく強い意志のある人材を広く募り、創造と挑戦の場を提供したいと考えています。

今回多数の応募作品の中から協賛企業賞として「未来を動かす、キミと共に」を選定しました。あえて建設機械をビジュアルの一部として用い、人の姿をメインに据えることで、幅広い層へ強く印象づけるアプローチが新鮮に感じました。また人物のビジュアルも偏ることなく、目にした人がそれぞれの感性で人物像を描けるような構図が取られており、想像力を刺激する作品でした。

コピーについてもよく練られており、「未来を動かす、キミと共に」や「あなたの挑戦が必要です」と語りかけているような表現、機械を作るだけでなく、ソリューションを生み出して世界中の未来を支えるというメッセージに引き込まれました。

他のどの作品もバラエティーに富んだアイデアをデザインし、当社への入社意欲をかき立てる作品で、ワクワクしながら拝見させていただきました。ご応募いただいた皆さまに感謝申し上げます。

オ カ ム ラ

オフィスにおける大人の距離

このたびはオカムラの課題に多く応募いただき、誠にありがとうございました。

当社は豊かな発想と確かな品質で働く環境を快適・豊かにするオフィス家具製造や働き方の提案を通して、人が活(い)きる社会の実現を目指しています。

今回の課題は4本脚の変形テーブル「WORK ISLE（ワークアイル）」です。コロナ禍において働く人々は、意図せずに時間と場所に縛られないリモートワークという新しい働き方へ移行しました。そして今、改めてオフィスが働くことに適した場として重要視されています。

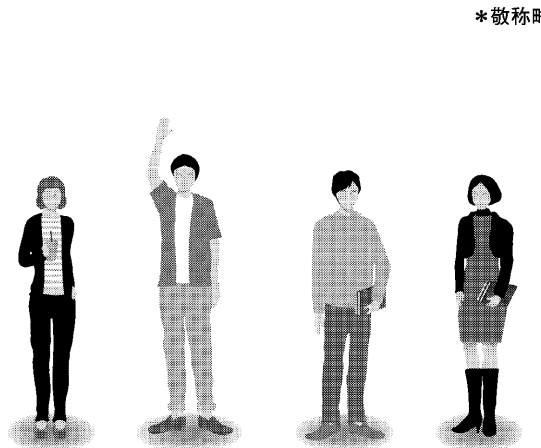
さらにオフィスは、仲間を感じながら認め合い補完しあう快適な場として進化しました。そんなオフィス内での人と人のつながりや距離・位置関係に着目した結果、今回の課題にした「WORK ISLE」が生まれました。

今回の協賛企業賞には、オフィス内の人と人のつながりを、子どもたちと大人の対比といったアイデアを表現した「大人の距離感より少し近くに」を選定いたしました。働く世代は子どものころのように笑っていないと感じています。人との接し方が複雑になっている中、本当に必要とされているのは…。そうした課題も想起させる本作品を選定させていただきました。

ご応募いただいた他作品からも学生らしい斬新な発想と、これからの期待させるものが多くありました。皆さんの熱意と創造力に心から感謝申し上げます。

第10回日本学生BtoB新聞広告大賞受賞者一覧

■金賞 作品名：ノーライス ノーライフ 課題企業：サタケ 制作者：畑中 穂香（創造社デザイン専門学校）	■審査委員会特別賞 作品名：“絶対”に離れない 課題企業：スリーボンド 制作者：梶野 美幸（創造社デザイン専門学）	■協賛企業賞 作品名：未来を動かす、キミと共に 課題企業：コマツ 制作者：唐 浩翔（大阪経済大学）	■協賛企業賞 作品名：一滴も無駄にはしない 課題企業：スリーボンド 制作者：石山 巧朗（東京情報クリエイター工学院専門学校）	■奨励賞 作品名：これからの地球を支える、コマツ 課題企業：コマツ 制作者：浦田 晴斗（京都芸術デザイン専門学校）
■銀賞 作品名：味方が増えるデスクを手に入れた 課題企業：オカムラ 制作者：久保 美聖（京都芸術デザイン専門学校）	■協賛企業賞 作品名：大人の距離感より少し近くに 課題企業：オカムラ 制作者：森 優菜（法政大学）	■協賛企業賞 作品名：「選別する」会社です。 課題企業：サタケ 制作者：赤尾 拓弥（京都芸術デザイン専門学校）	■奨励賞 作品名：アルミニウムの訴え 課題企業：UAC J 制作者：三宅 亜弥（広島コンピュータ専門学校）	
■銅賞 作品名：アルミ 課題企業：UAC J 制作者：渡邊 要（大阪経済大学）	■協賛企業賞 作品名：転生したらロケットだった。 課題企業：UAC J 制作者：藤田 あいみ（秋田公立美術大学）	■協賛企業賞 作品名：身近な力持ち 課題企業：三菱電機 制作者：佐々木 碧樹（秋田公立美術大学）	■奨励賞 作品名：銀河鉄道の夜 課題企業：三菱電機 制作者：梶野 美幸（創造社デザイン専門学校）	



*敬称略

第10回

日本学生 B to B 新聞広告大賞

協賛企業賞

鮮烈なインパクトー時代動かす

転生したらロケットだった。

藤田 あいみさん（秋田公立美術大学）

身近な力持ち

佐々木 碧樹さん（秋田公立美術大学）

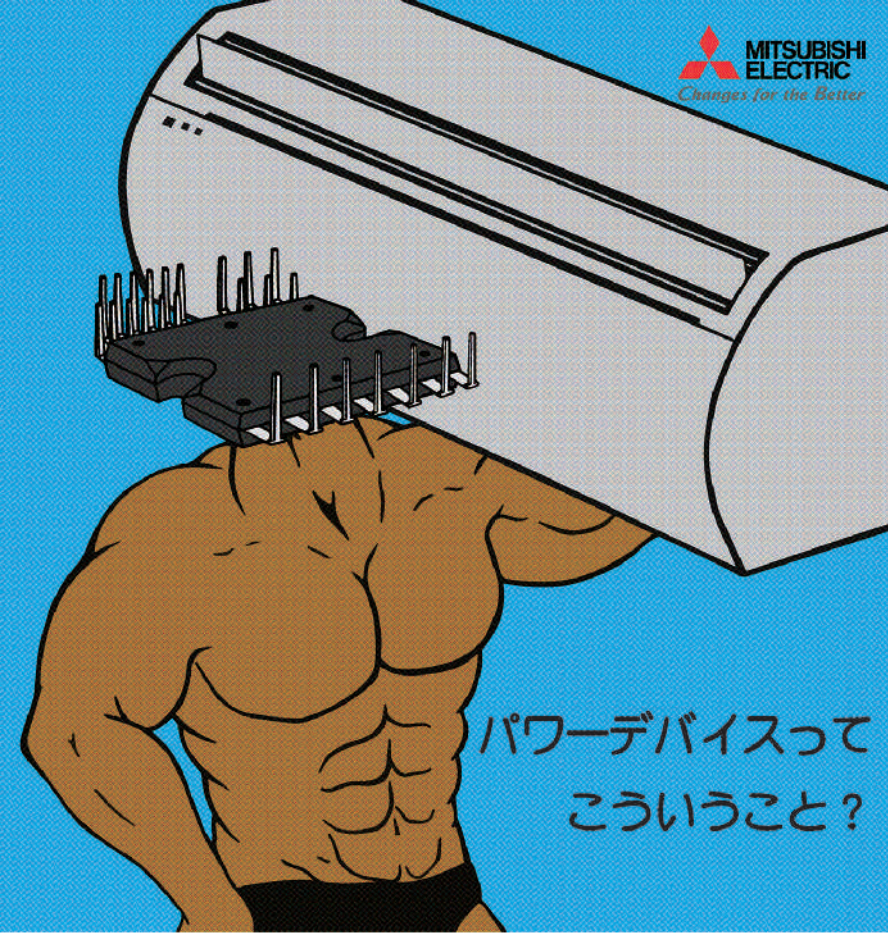
一滴も無駄にはしない

石山 巧朗さん（東京情報クリエイター工学院専門学校）



アルミニウムは何度もリサイクルできる。
アルミニウムは何にでもなれる。
アルミニウムは人々の暮らしと産業を支えている。

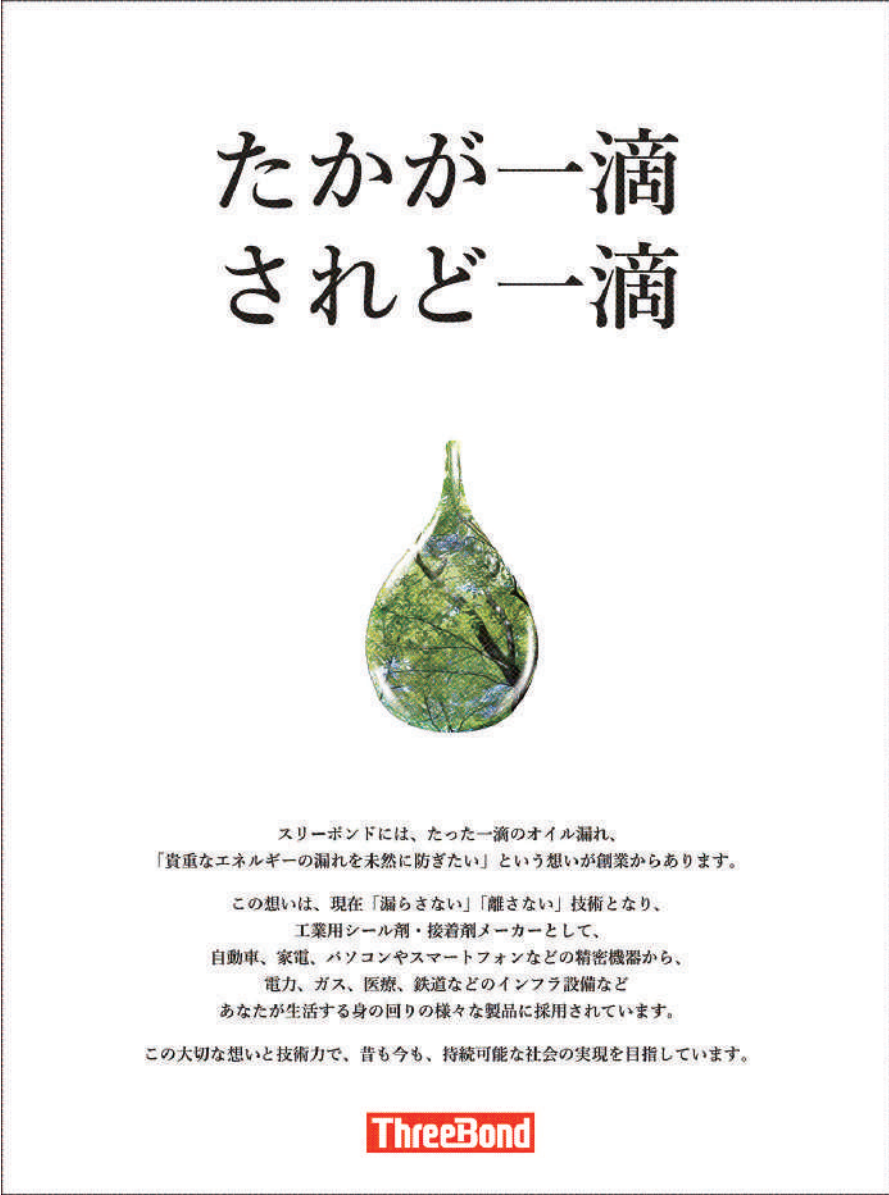
UACJはアルミニウムの可能性を広げ、環境負荷低減に貢献する会社です。



いつも身近でストイックに働いている、
緑の下の方たち。

効率よく電力を変換して無駄になる電力を少なくするパワーデバイスとは、毎日の暮らしに欠かせない家電の省エネに貢献する部品です。
また、家電だけでなく自動車の電動化や鉄道車両、大型産業機械などさまざまな場所のニーズに合わせ、多様なデバイスを開発しています。

三菱電機株式会社



U A C J

航空宇宙産業の未来への可能性

このたびはUACJの課題「企業広告」に多くのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

当社はグローバルに事業を展開するアルミニウム総合メーカーです。コーポレートスローガンに「アルミでかなえる軽やかな世界」を掲げ、飲料缶、自動車、IT機器、空調、航空宇宙産業などの幅広い分野にアルミ素材を供給し、人々の暮らしや産業を支えています。

アルミニウムは近年、環境負荷低減の観点から特に注目を集めています。リサイクルすると、原料から製造する際と比較して、CO₂排出量をわずか3%に抑えられます。さらに、何度もリサイクルすることができます。

今回、「アルミニウムが環境負荷低減に貢献できる素材であることを訴求し、当社の企業認知を向上させるための企業広告」を募集させていただきました。協賛企業賞の作品「転生したらロケットだった。」は、ロケットをキービジュアルに、「転生」という言葉を用いて、アルミニウムのリサイクルについて情緒を持たせて表現するというユニークな内容でした。当社が力を入れている航空宇宙産業の未来への可能性や、当社の企業姿勢を、印象的に表現してくださいました。広告を見た人が、どのような意味なのか考えたくなるような作品です。

他の作品もユニークな視点のものや熱意を感じられるものばかりでした。ご応募いただいた皆さまに感謝いたします。

三菱電機

パワー半導体が家電支える

このたびは三菱電機の課題「パワー半導体」にエントリーいただき、ありがとうございました。「パワー半導体」はゲーム機などに搭載されている「GPU」や「メモリ」と違い、半導体の中でもマイナーな存在で、一般の方には、ほとんどなじみのない製品です。その一方でカーボンニュートラル実現に向けて、さまざまな製品の省エネを実現するキープライスとして重要性がますます増している製品でもあります。

そこで今回は「パワー半導体」の存在とその役割をシンプルに、より多くの方に知っていただきたいと願い広告のアイデアを募集しました。

しかしながら「パワー半導体」は、その仕組みは？なぜ省エネに貢献できるのか？などの機能を作品内に表現しようとすると、とても複雑になってしまう非常に難しい課題です。

応募いただいた作品はどれも、わかりやすくシンプルに表現する工夫に溢れており素晴らしいものばかりでした。

協賛企業賞の作品は、マッチョな肉体に頭がパワー半導体という、インパクトあるビジュアルがパワー半導体の代表的な用途の一つであるエアコンを担っている姿が、一目で身近な家電をパワー半導体支えている事を理解でき、また「ストイック」というコピーが「パワー半導体」の「陰ながら黙々と頑張る働きぶり」をうまく表現できており、非常に感銘を受けたため選ばさせていただきました。

今回も数多くの素晴らしい作品をご応募いただき、本当にありがとうございました。ご応募いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。

スリーボンド

シンプルだからこそ、伝わる想い

このたびはスリーボンドの課題に対し、想定を上回るたくさんのお応募をいただけたことに感謝すると同時に社員一同大変感激しております。当社としても、日本学生BtoB新聞広告大賞に参画させていただくことが初の試みということもあり、世間の認知度が決して高くない当社をご存じではないであろうという不安な胸中、作品から伝わる豊かな想像力とフレッシュな創造力に感銘を受けました。

当社は1955年の創業以来「エネルギーのロスを未然に防ぎたい」という想いから、自動車のエンジンオイル漏れを防ぐシール剤を開発し、今では、スマートフォンなどの精密機器から、電力、ガス、医療、鉄道など、さまざまな製品に当社のシール剤・接着剤が貢献しています。創業70周年を迎える2025年、参画を決めた次第です。

協賛企業賞の「一滴も無駄にはしない」は、当社の創業理念である「一滴のところで未来をつくる」をシンプルに表現してくれました。創業以来、「漏らさない」「離さない」技術をシール剤・接着剤として商品化し、社会課題の解決に向き合ってきました。そんな想いをシンプルなコピーとイラストで表現しており、この作品を通して、どんな会社なのだろうと興味を湧かせてくれる点が印象的でした。

応募いただいた他作品からも学生らしい自由な発想で創造力豊かなデザインを拝見できたこと、大変嬉しく思います。最後に本企画にご応募いただきました皆さまと関係者の方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

日本学生 BtoB 新聞広告大賞 これまでの受賞者（所属および企業名は受賞当時のものです）									
第1回（2016年）		第2回（2017年）		第3回（2018年）		第4回（2019年）		第5回（2020年）	
金賞	作品名：シンプルに"回転" 課題企業：日本精工 制作者：松浦 駿亮（東京藝術大学）	金賞	作品名：取り出す時に思うこと 課題企業：富士電機 制作者：岡庭 秀晃（長岡造形大学）	金賞	作品名：モニター越しでも、部長は怖かった。 課題企業：パナソニック 制作者：枝村 智仁（武蔵野美術大学）	金賞	作品名：薄っぺらなヤツじゃございません。 課題企業：NOK 制作者：佐近 正樹（創造社デザイン専門学校）	金賞	作品名：喜びの雄叫びを上げれるオフィス 課題企業：オカムラ 制作者：高田 颯平（愛知県立芸術大学）高田 陸央（金沢芸術工芸大学）
銀賞	作品名：でも手を繋いだ。 課題企業：三菱電機 制作者：三浦 優大（東京造形大学）	銀賞	作品名：まずは、立つ。 課題企業：岡村製作所 制作者：乾 佳乃子（創造社デザイン専門学校）	銀賞	作品名：立ち上がっても悪くない 課題企業：オカムラ 制作者：安藤 隆徳（創造社デザイン専門学校）	銀賞	作品名：どんな出会いがあるのだろう。 課題企業：島津製作所 制作者：岡庭 秀晃（長岡造形大学）	銀賞	作品名：私たちはここにいる 課題企業：日本航空電子工業 制作者：井上 陽介（創造社デザイン専門学校）
銅賞	作品名：理想を叶える 課題企業：岡村製作所 制作者：古田 裕美（専門学校浜松デザインカレッジ）	銅賞	作品名：ごはんでありたい。 課題企業：横河電機 制作者：小澤 徳人、世安 健吾（明治大学）	銅賞	作品名：いつか地球を回したい。 課題企業：日本精工 制作者：岡庭 秀晃（長岡造形大学）	銅賞	作品名：座って進む、社会が進む。 課題企業：オカムラ 制作者：宮崎 ひなた（デジタルハリウッド大学）	銅賞	作品名：アルミニウムで日本一。 課題企業：UACJ 制作者：小山内 美遥（一橋大学）
第6回（2021年）		第7回（2022年）		第8回（2023年）		第9回（2024年）			
金賞	作品名：※漏れないようにピッタリハマっています。 課題企業：NOK 制作者：横山 魁（東京都立大学）	金賞	作品名：この病院は、顔が効く 課題企業：パナソニック 制作者：万壽本 光咲（創造社デザイン専門学校）	金賞	作品名：1円にもならない話をしよう。 課題企業：UACJ 制作者：坂本 真奈花（創造社デザイン専門学校）	金賞	作品名：今は、アルミの時代 課題企業：UACJ 制作者：川之上 慎（立教大学）		
銀賞	作品名：頼れる相棒へ 課題企業：住友重機械工業 制作者：諸江 音美（創造社デザイン専門学校）	銀賞	作品名：するいよ。どこでも行けるなんて。 課題企業：オカムラ 制作者：諸江 音美（創造社デザイン専門学校）	銀賞	作品名：循環過程 課題企業：オカムラ 制作者：小野 颯大（東京造形大学）	銀賞	作品名：どこまで、見えていますか？ 課題企業：サタケ 制作者：青木 星海（武蔵野美術大学）		
銅賞	作品名：熟練AIの勤で、変えられるシナリオがある。 課題企業：富士電機 制作者：後潟 美希（デジタルハリウッド大学）	銅賞	作品名：父のように、頼りがいがある 課題企業：ティ・エス・テック 制作者：呉 開西（武蔵野美術大学）	銅賞	作品名：9割のアルミ缶 課題企業：UACJ 制作者：井上 楓（早稲田大学）	銅賞	作品名：八十八の神様 課題企業：サタケ 制作者：梶野 美幸（創造社デザイン専門学校）		